

研究論文

## 日本語学習サポートにおける活動意識に関する研究

— 日本人学生と留学生 —

福岡昌子（留学生センター）・藤本久司（人文学部）・別府直苗（教育学部）

### Study of Consciousness in Activities of Japanese Language Study Support for International Students

— In the Cases of Japanese Students and International Students —

FUKUOKA Masako • FUJIMOTO Hisashi • BEPPU Naoi

#### 〈Abstract〉

A united support system for international students to improve Japanese ability has been organized in April 2003 by three teachers from different faculties. One or two Japanese student(s) support(s) an international student in studying Japanese in various ways ninety minutes a week. The group of Japanese students is a volunteer club, and carries out not only support but also various kinds of events throughout the year.

In the results of the questionnaire to the students in the latter half of 2003, we can find out the needs and trends of the students. In the beginning of the support activities both sides of students desire that their partner should be a person who gives them the intimate and precise knowledge about each other that they desire. While they continue supporting, each of them finds out new points of view about cultural differences, the situation of the partner, difficulties of teaching, importance of their own culture, and so on. The experience makes both students grow into adults with cosmopolitan points of view and deeper understanding of foreigners. It is also essential for teachers to support their growth as specialists of Japanese education, staff of the university, and elders.

キーワード：日本語学習支援、アンケート、日本人学生、留学生、ボランティア

#### 1. はじめに

留学生に対し日本人との交流や日常生活のための日本語習得のサポートを要望する声が高かったことから、2003年4月から従来個別に学生によるサポート活動を行っていた留学生センター、人文学部、教育学部の担当教員が連携し、全学部の留学生を対象にした学習支援体制を再構築した<sup>1)</sup>。

このプログラムは、基本的には週1回双方の合う空きコマを使って、日本人学生1、2

名が留学生1名をサポートするものである。2003年度中には33～35組のサポートの組み合わせがあった。サポート内容は留学生のニーズにより、問題集の解答、レポート・論文のアドバイス、申請書の添削など様々である。日本人学生と一部留学生は「てらこや」という名称でサークル登録を行い、学生間の情報交換を兼ね、週2、3回の全員ミーティングを行った。また、親睦・交流のため年数回の交流パーティー、夕食会、その他留学生も含めた多数の参加を得てイベントを催すとともに、サポートのレベルアップのための学習会も行ってきた。

2003年度の後期に、活動に関わる日本人学生、留学生へのアンケートを行った。本稿では、日本語学習支援の具体的な内容を紹介すると共に、アンケートの結果から双方のニーズや学生としての意識とサポートを通じての意識変化、今後の日本語学習支援のあり方などを分析する。

## 2. 先行研究

留学生支援には、「問題解決型の支援と開発・予防型の支援」があることを構造的に論じた横田論文(1999)がある。その中で横田(1999:6)は、クライアント(来談者)が持ち込む相談や悩みにカウンセラーが対応する「問題解決型」ばかりでなく、カウンセリングに至らないところで解決する力を、日本人との交流の中で作っていけるよう「開発・予防型」支援の必要性を述べている。

また、「大学における留学生支援システムとしての日本語教育」の改善を図るために、エレン・ナカミズ(1999)は次の三点をあげる。①留学生に対し「受け身の立場ではなく、インターアクションの場面の一員として積極的に参加する機会が必要である」として「教室外のネットワーク」を作ること。②「同じ大学の学部によって対応の仕方が大きく異なっている」という現状をふまえ、語学面を支援する体制づくりを行うと同時に、その継続性を持たせること。③支援システムのあり方として「大学から地域社会への広がり」を提案し、地域ボランティアとの連携が重要になること。

さらに、坪井(1999)も「留学生と日本人学生の交流教育」の重要性を指摘し、「日本人学生は留学生の日常生活のなかで最も身近な支援の要員」という見識を示し、「留学生との交流や支援」は「自明と思われていた生活世界を再発見するよい機会になること」「人の役に立つ存在として自己の社会的な有用性を発見するよい機会になること」などの効果を挙げている。

このように大学における留学生支援のあり方が議論されている中で、2004年6月に(於：福井)文部科学省主催の「留学生交流協議会」(「中部・近畿地区」)が開催され、分

科会のテーマとしてこの「留学生の日本語学習支援」の問題が採択され討議された。その結果、いかにして留学生の日本語習得を促進させ、かつ容易にする環境づくりをするか、という問題意識を持ち行動を起こそうとしているのは、留学生を常に目の前にしている担当者以外に関心を抱いているものは少なく、全学的な取り組みの必要性が論じられた。

本研究は、これらの先行研究で述べられている留学生支援のあり方と同じ視点をもって、日本人学生との交流の中で日本語学習支援のあり方について検討するものである。

### 3. アンケート調査方法について

2003 年前期における日本語学習サポートに参加した留学生と日本人学生に対し、アンケート調査を後期はじめに実施した。回答数は、日本人学生は合計 28 名、留学生は合計 16 名の回答があった。集計後、これらの結果をグラフにまとめ、分析を行った。アンケートの調査内容に関しては、論文末の資料 1, 2 を参照されたい。

### 4. アンケート調査結果

この項では、アンケートの質問項目の内容が日本人学生と留学生とで対応しているため、それぞれの項目について結果をまとめる。

#### ① 指導した学習者のレベルと指導を受けた学習者のレベル

今回の調査では、サポート・プログラムに参加した全てのペアの日本人学生と留学生がこのアンケートに答えているのではないため、アンケート結果において必ずしも日本人学生が指導した学習者のレベルと指導を受けた留学生のレベルとが一致しているとは限らない。日本人学生は、初級レベル担当者が 21%、中級レベル担当者が 32%、上級レベル担当者が 47%であった。また、留学生は、初級レベルの学習者が 37%、中級レベルの学習者が 38%、上級レベルの学習者が 25%で、この回答結果では、留学生は初級、中級、上級レベルがほぼ 1/3 ずつであるが、日本人学生の方は、上級レベル担当者が圧倒的に多かった。これを踏まえて、以下の結果を述べる。

#### ② 指導内容と学習内容

①回答した日本人学生は上級レベルが多かったためか読解に関する学習内容が多少多い。日本人学生の指導内容と留学生の学習内容とではほぼ一致しており、会話、読解、漢字が多い。(図 1-1, 図 1-2 参照)

#### ③ 「学習サポート・プログラム」の情報の入手方法

日本人学生は、サークル案内 (41%)、友人の紹介 (32%)、構内の掲示板 (24%)、先生の紹介 (3%) であった。留学生は、留学生センターでもセンターのオリエンテーショ

図1-1 指導内容：日本人学生

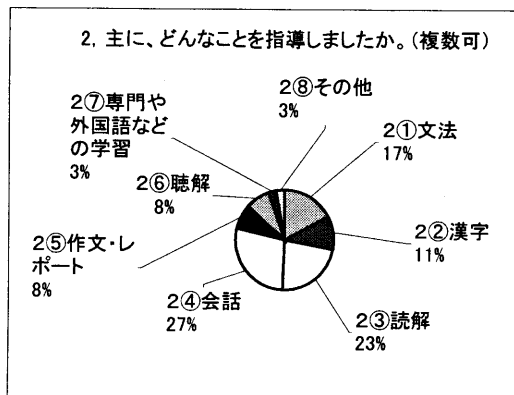
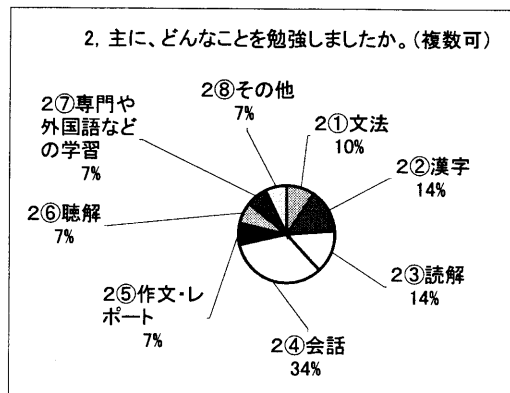


図1-2 学習内容：留学生



ンで紹介を行ったためか、先生からの紹介が多く（55%）、また、構内の掲示板は30%、友人の紹介が15%であった。

④ 「学習サポート・プログラム」に参加した動機

日本人学生は、留学生と交流をしたかった（34%）、異文化に興味があった（32%）、留学生の役に立ちたかった（18%）、外国語を勉強したかった（12%）と、異文化への興味があっても、留学生と知り合うチャンスがあまりないことがうかがえる。留学生は、日本語の力を伸ばしたい理由が最も高く（31%）、次いで日本人との交流（24%）や日本文化への興味（24%）、話し相手がほしかった（21%）などの理由が挙げられている。(図2-1、図2-2参照)

⑤ 日本人学生：指導上むずかしかったこと、留学生：学习上困ったこと

日本人学生は、日本語の教え方（30%）や文法事項や語彙の説明の仕方がむずかしかったこと（34%）を挙げている。留学生は、日本人学生が指導方法に苦慮していても、留学

図2-1 参加した動機：日本人学生

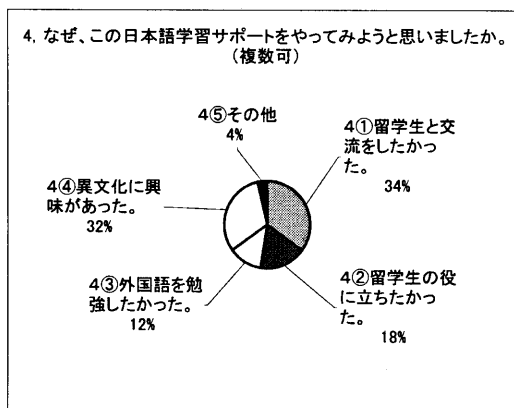


図2-2 参加した動機：留学生

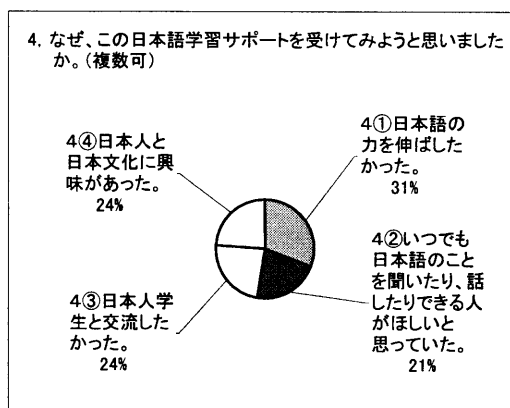


図3-1 困難点：日本人学生

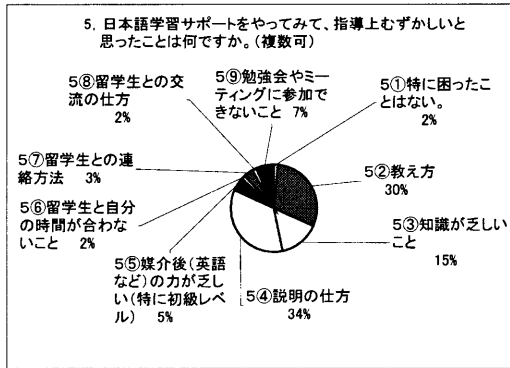
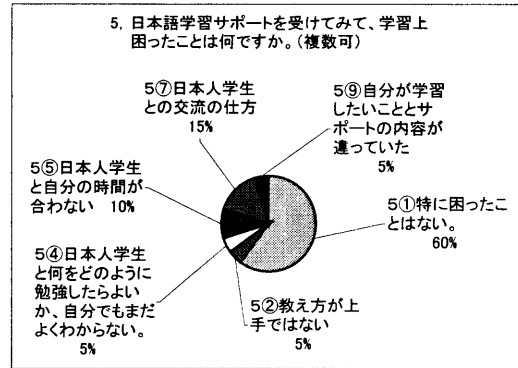


図3-2 困難点：留学生



生はそれを全く意識しておらず、特に困ったことはない(60%)としているところがおもしろい結果になっている。(図3-1、図3-2 参照)

⑥ 日本人学生：留学生から学習以外に頼まれたこと、留学生：日本人学生から頼まれたこと

この項目は、学習以外に何か頼んだり、頼みごとがあるか、尋ねる内容であったが、日本人学生(79%)、留学生(87%)と、ほとんどそのようなことはなく、双方の関係は日本語学習の指導が中心になっている。上記の質問事項で、日本人学生と留学生が学習以外に個人的に頼まれたことがあったという答の内容を見ると、日本人学生の側が留学生の個人的な問題を相談されていることがあった(14.3%)。

⑦ ペアとなった日本人学生・留学生との日本語学習の達成感

日本人学生と留学生は、そのペア同士で日本語学習がうまくやれたと述べており(日本人学生100%、留学生81%)、留学生の中には、「うまくやれても、やれなくても、日本語を教えてもらう際にはあまり関係ない」と考えている(13%)。

⑧ 「日本語学習サポート」を通して、プラスになったこと

日本人学生は、日本語について再発見できたこと(25%)、留学生と交流できたこと(24%)を挙げている。留学生は、わからないときに教えてもらってよかったことや日本語の力が上がったこと(32%)、先生以外に日本語を教えてくれる日本人がほしかったのでよかったこと(26%)を挙げており、双方が交流できたこと、そして何よりも留学生にとって日本人学生のサポートがうれしかった様子が留学生の結果から理解できる。(図4-1、図4-2 参照)

⑨ 「日本語学習サポート」を通して、マイナスになったこと

日本人学生も留学生も、「日本語学習サポート」を通して、マイナスになったことはな

図4-1 プラスになったこと：日本人学生

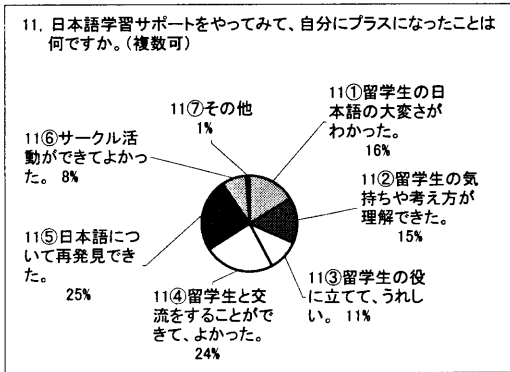
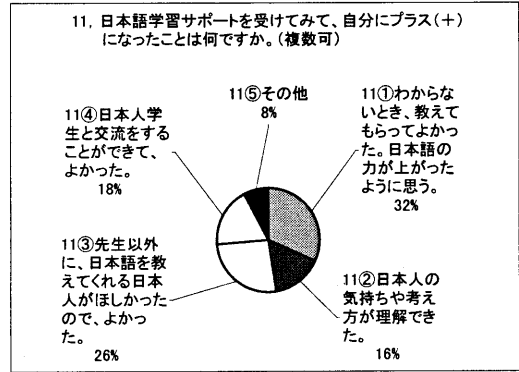


図4-2 プラスになったこと：留学生



いと述べている（日本人学生 69%、留学生 87%）。日本人学生の中には、自分の時間が減ったと感じている学生（17%）やサポートすることに少し負担を感じている学生（14%）がいた。

⑩ 「日本語学習サポート」が、留学生にとって役立つプログラムだと思う理由

日本人学生は、留学生が多くの日本人と知り合えるチャンスがふえること（25%）、個々の留学生の日本語が向上すること（17%）など多くの点で、留学生にとって役立つプログラムだと考えている。留学生にとっては、やはり自分たちの日本語のレベルが向上すること（24%）、日本語学習の支援を行なってもらえること（22%）が、役立つプログラムだとする理由に挙げている。（図5-1、図5-2参照）

図5-1 役立つプログラムだと思う理由：日本人学生

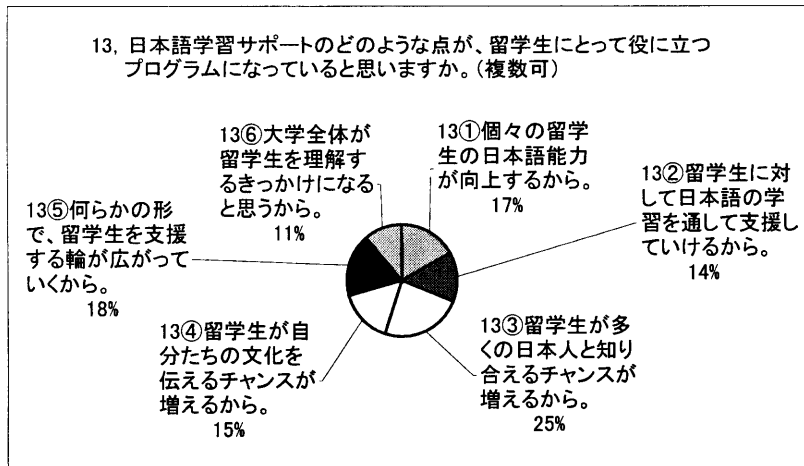
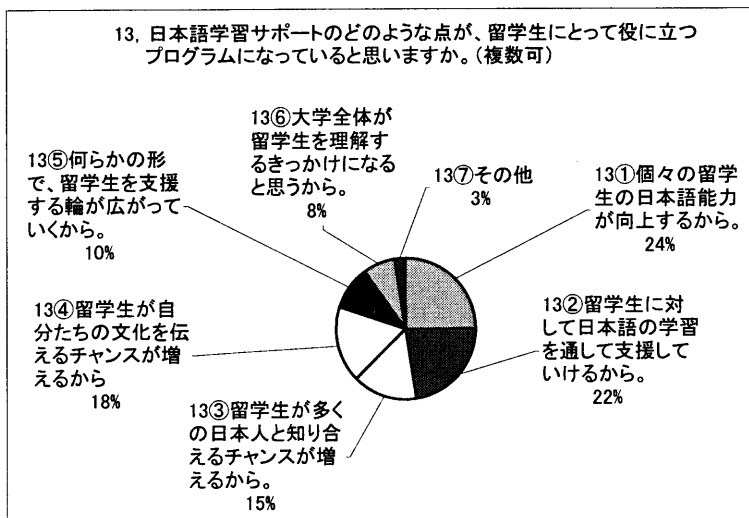


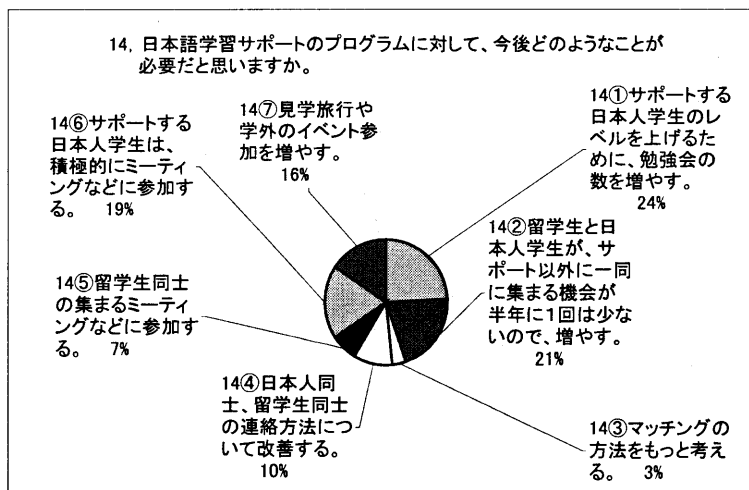
図5-2 役立つプログラムだと思う理由：留学生



⑪ 「日本語学習サポート」の今後の取り組みとして必要なこと

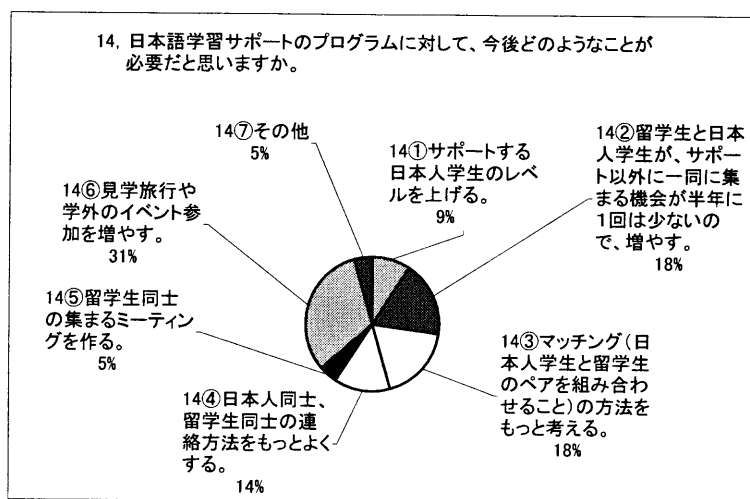
日本人学生は、サポートする日本人学生のレベルを上げるために、勉強会の数を増やすこと（24%）や留学生と日本人学生がサポート以外に、一同に集まる機会を増やすこと（21%）、そして、サポートする日本人学生は、積極的にミーティングに参加すること（19%）など、日本人学生の「日本語学習サポート」への真摯な取り組みがうかがわれる。一方、留学生は、見学旅行や学外のイベント参加を増やしたり（31%）、留学生と日本人学生がサポート以外に、一同に集まる機会を増やすこと（18%）を挙げており、留学生は

図6-1 今後の取り組みとして必要なこと：日本人学生



日本人学生との交流の場を求めていることが理解される。また、日本人学生では意見としては少なかった（3%）が、マッチングの方法をもっと考えるべきだ（18%）と回答しており、留学生側に配慮したマッチングの方法を検討する必要がある。（図6-1、図6-2参照）

図6-2 今後の取り組みとして必要なこと：留学生



## 5. アンケートからの考察

### 5-1 日本人学生

サポートメンバーとの対話及びアンケート結果から理解できることの1つは、外国に関心の高い日本人学生が校内や授業で留学生と顔を合わせていても、出身国の文化や生活習慣などについて話を気楽に聞ける付き合いをしている者が意外に少ないことである。アンケートからは異文化や外国語、外国人への強い関心が見て取れ、本学習サポートによって留学生との関わりを持とうとする強い意欲が感じられる。

各ペアによる学習サポートはほぼ個々のニーズに応じて順調に行われており、一部が留学生から個人的な相談や誘いを受けたことがあるが内容を分析すると好意的なものが多く、3割程度がサポートにやや負担を感じたことがあるが、総じて人間関係のトラブルと言える事は起きていない。

一方、サポートの結果として得られる収穫は多い。日常何気なく使っている日本語の再認識、説明のための知識不足の自覚、価値観の相違の発見、留学生の環境や問題点についての認識、同年代同士の親近感などに加え、自文化の重要さや自己の生き方の再認識も挙げることができる。また、アンケート結果からも、サポートを通じて留学生の日本語学習のみならず留学生そのものへの理解、交流、支援が拡大していくことへの強い期待感が現



れている。学内の一般的な交際では得られない様々な諸発見の場として、日本語学習サポートは日本人学生に効果的な機会を提供している。

## 5-2 留学生

留学生の多くは、授業以外で日本語や日本のことを聞ける日本人学生を求めており、留学生にとっても日頃、それらのことに時間を取り気楽に教えてもらえる日本人学生が少ないことが複数のアンケート結果から推測される。大半の留学生が留学生センターや留学生仲間からサポートに関する情報を得、授業以外でも日本語のレベルアップの機会を得るためサポートを希望している。動機として日本人、日本文化への関心も極めて高い。

サポートの内容は個々の具体的なニーズに対応したものが見られ、各自の日本語レベルの向上につながっている。トラブルもほとんど無く、大半の留学生が当面のサポートとその相手を好意的に評価しているが、一部マッチングについての不満は今後も検討が必要で、留学生のニーズを正確に把握することを考えていかなければならない。

一方、サポートを通じ日本人や日本文化などへの理解も進んだことがうかがえるとともに、留学生自身が自国の文化を日本人学生に伝える機会としての評価も少なくない。サポート以外のイベント開催の希望は多く、多数で気楽に参加できる機会作りに努力が必要である。

総じて本サポートは留学生全体にとっても有意義な活動となっており、留学生理解・支援拡大への契機の1つとして学習サポートを捉え、継続の期待も大きいと言える。

## 6. まとめと課題

### 6-1 日本人学生にとっての日本語学習サポート

日本語学習サポートという半ば義務的、定期的な活動を通して、外国人（留学生）に接した日本人学生は、少なからず日本語、日本文化、日本社会などへの再認識を経て、活動参加以前の意識を大きく変化させていく。このことが彼らの未完成な国際感覚からの脱皮、日本人としてのアイデンティティの成熟を促し、人間としての成長の一環になっていくことは喜ばしいことである。

日本語学習という活動の材料そのものも、彼らの活動への入りやすさの大きな要素になっている。日常、学内で会っているはずの外国人留学生であるが、大半が彼らと親密な交流をしているわけではない。原因は異文化への憧憬と畏怖の併存、外国語への自信不足、親密になるための共通話題の少なさ、（急増しているとは言え日本人学生に比較した）留学生の希少性などが推測される。また坪井（1999）が指摘するように（外国の学生に比べ）「日本の学生の場合、異文化交流能力の欠如以前に、同じ文化を有する日本人学生同士の

対人関係能力が十分身に付いていない」ことも一因となっているであろう。個人的努力によって留学生との友情を深めて行く大学生も見られるが全般には極めて少数である。その状況の打開策の1つとして日本語学習サポートは極めて貴重な機会を創造している。日本語学習を助ける、というアプローチは極めて分かりやすく入りやすい。かつ、スタートした後は責任と継続性が要求される。日本人学生は、日本語という比類なく身近な言語が素材であり、それが留学生の需要の対象になっていることに安堵し、次第に留学生と個人的親密さを加えつつ、教えることの困難さに気づいた後も、ほとんどが並行的に様々な発見に関心を深め、教える努力を続けることになる。「留学生との交流が対人関係のソーシャル・スキル（社会的技術）の基本的な訓練」（坪井 1999）になり、社会的人間として成長する貴重な階段を昇っていると言える。

日本語サポートに参加している日本人学生の今後の課題の1つは、日本語を教える知識の不足をいかに補うか、ということである。前述のように活動の参加段階で、日本語教育に関する知識は皆無という学生が圧倒的に多く、サポートを始めて語彙・用法等の説明の困難さに気づいた後も、本格的にいわゆる日本語教育法のようなものを学ぼうという学生は少ない。結果、日本人学生が平易に説明できる適切な語彙力を持っていて、日本語検定1、2級レベルの留学生の質問には答えられたとしても、あまり日本語レベルの高くない留学生を相手にしている者はサポートの限界を感じるようになる。日本人学生にとって最低限必要な日本語教育の知識とはどこまでで、どういった部分なのか、重要な検討課題である。

次に重要な課題は、自主的なサークル活動への自覚である。初めに述べたように、3人の教員の協力によって構築された「全学部を対象とした日本語学習サポート」であるが、軌道に乗る最近まで、学生に対する指導的なフォローを意図的に行ってきたのは事実である。指導的なフォローは初期システムとしてのサポート体制構築には必要な段階であったが、今後、サポート経験を積んだ学生がリード役となり、新たなメンバーを加え、サポートサークル「てらこや」として自立した体制を確立していくことが望ましいと考えている。システムが構築された後も教員の指導や依頼の下に行われている（又は、行われていると思われるような）状況が継続すれば、こうした自立や自覚が揺らぐことになりかねない。2004年度において、パーティー、大学祭、伊勢市や伊賀市への研修などが、教員がほとんど関わらず、「てらこや」メンバーと留学生による実行委員会形式で分担し担当して行われている。自立したサークル活動への移行のため、学生自身の自覚と意識の変革が問われる段階に来ている。

## 6-2 留学生にとっての日本語学習サポート

留学生においても、日頃親しく交際する日本人学生を持つ者は少なく、本サポートは日本語学習を目的として、授業以外で日本人学生に日本語や日本のことを自由に聞ける良い機会となっている。自らの必要な時期、希望によってサポーターを得られるため、日本語学習のみならず、進学・試験のための学習、レポート・論文の作成チェックなど、それぞれ適切な時期に適切なサポートを受けることができる。制度的なチューターとは異なり、自在に受けられるサポートとしての適宜性、柔軟性が利点である。また、原則週90分の出会いを日本語学習のために有意義に使いたいとする留学生が圧倒的に多いが、日本人学生と同じく、学習以外の様々な発見をし、改めて日本や日本人に持っていた疑問や誤解を正しい理解に結びつけるケースも多々見られる。

留学生にとって日本語学習サポートは、基本的に日本人学生に日本語について「教えてもらう」システムであり、こうした受身的な立場をいかに相互学習的なものに変えていかも課題である。一部のペアの中には当初から、日本語をレベルアップしたい留学生と中国語または英語能力を伸ばしたい日本人が話し合い、相互に時間を設けて「教えあう」関係を作り上げているケースもある。そこには信頼感と共に対等な受益関係が加わり、結果として相互が成果を得る形が生まれる。相互学習の典型的な例であるが、これらはまだ少数で全体的な広がりになっていない。しかし、日本人学生のアンケート結果から推測できるように、一方的に日本語をサポートする関係に見えても、異文化理解や異なった価値観の新発見、日本語・日本文化への目覚めなど、日本人学生にとって語学以外の様々なことを「教えてもらう」ということに充実感を見出していることも事実であり、横田（1999）の言う「『支援』を通して相互的な学習がなされ、留学生と日本人学生の双方が発達的に変化していく過程」であると言える。こうした成果を積極的に評価し本サポートを肯定的に捉えていきたい。

留学生のニーズと日本人学生のサポート能力の問題に触れておきたい。本サポートは基本的に初級レベルの後半以降の留学生を対象としている。ごく初期の日本語レベルしか持たない者へのサポートは、日本語教育専門家ではない日本人学生には様々な意味で難しい。学習面での困難さはもとより、サポートが始まればほとんどのサポート時間をペアのみでこなし事務的な連絡もしなければいけないことを考えると、簡単な日程打ち合わせさえ不可能なレベルの留学生を対象にできない現実がある。また、日本語初級者の人数は多く希望者も多いが、彼らの間でもレベル、得意な能力の分野は異なる。日本語教育の専門知識が不十分な日本人学生にとって対応し切れない場合もあり、留学生に不満を残すケースも見られる。これは日本語初級者におけるニーズの多さと多様性、教える日本人学生の数と能力の限界の問題であり、今後も検討を要する課題である。もっとも、日本の大学を選び

学んでいる留学生にとっては初期段階の相当部分を授業と自習でのレベルアップに努力することが第一義である。その結果理解できていない部分等を日本人学生のサポートに求めることが基本であって、専門知識を持たない学生に、日本語初心者が満足できるような専門家的日本語教育を求めるのは酷であろう。

最近のサポートサークル活動において、留学生も積極的に企画にかかわるケースが増えている。留学生と日本人学生が合同で行うイベントに準備段階から自然に協力するのは、留学生が参加しやすい環境を作り出すだけでなく、留学生に対する「お客さん」的発想から「大学生の一部」意識への好ましい転換でもある。留学生の準備委員と日本人学生の双方から情報を得て、各イベントに参加する留学生数は確実に増えている。アンケート結果にも現れているように、学習サポート以外のイベントへの期待とその持つ意味は意外に大きく、横田（1999）が述べているように「支援（援助）という意図をもたない『交流』活動も開発的・予防的な『支援』の基盤づくり」となっている。交流イベントを学習サポートの補足的な視点で捉えるのではなく、相互補完的なものとして、今後積極的、計画的に組み入れていくべきだと考える。

### 6-3 教員にとっての日本語学習サポート

最後に、本サポートの中で教員はどのようなスタンスを求められるかを述べたい。

第一は日本語教育専門家としての教員の役割である。サポートシステムの初期段階での指導的フォローを経て、日本人学生に経験者が増え、自立したボランティアサークルとしてのサポートの段階を迎えたとき、教員が全面的に手を引くということは可能であろうか。前述のように、留学生は日本語の専門的教育を受けて能力を伸ばしているが、サポートする学生は必要最低限の日本語教育の知識を持っていることが望ましい。日本語教育基礎知識の学習も学生側の希望に応える形で行われることが理想的であるが、いずれにしても日本語教育専門家として教員の関わりは不可欠である。また、ペアを組むときのレベルやニーズの汲み取りも専門家としての視点が要求される。学生では留学生に応じた教材がわからないとき、そうしたアドバイスも専門的に行わなければならない。このようにサークルの自立と並行し、教員の役割は学習サポートの要所で一層重要になる。

第二は大学の組織の一員としての教員の役割である。教員はサポートを行うサークルの顧問としての立場であり大学の組織側の一員として、留学生と日本人学生をバランスよく見守ることが要求される。このサポートにより相互に有形無形の成果を得られるよう、適時適切なアドバイスを与えることが重要になる。留学生も日本人学生も個々のペアとしてだけでなく大学の構成員としてとらえ一定の方向性を持たせ、適時学内の必要な情報も双方に与える。その積み重ねが大学全体に草の根的な活性化をもたらしていくことと思われ

る。

最後に人生の先輩としての教員の役割を述べる。ペアを組む双方共に個性豊かで可能性を秘めた若者である。サポートという出会いを通して得られる発見や疑問を異文化への正確な知識獲得と人間的な成長につなげるため、サポート以外の必要な機会を与えていく努力が常に要求される。日本人学生にとっては、学内で触れる外国人、外国の知識から、学外あるいは国内各地で進行する多文化化へと理解を広げ、留学生以外の多くの外国人とも知り合い、日本や世界の動きを把握することに結び付けていく。留学生、日本人学生ともに、時代に即した世界人、国際人としての成長の一助となる機会作りを「サポート」する——このことが教員の重要な役目と言えるのではないだろうか。

追記：本研究は、2004年度日本語教育学会秋季大会におけるポスター発表「全学部を対象とした「日本語学習サポート」の取り組み」（予稿集頁209～210頁）に加筆修正を行ったものである。

注

1.福岡昌子・藤本久司・別府直苗（2004）を参照のこと。

#### 参考文献

エレン・ナカミズ（1999）「留学生支援システムとしての日本語教育」、pp.51-59.

坪井 健（1999）「留学生と日本人学生の交流教育—オーストラリアとの比較を通して—」、pp.60-59.

早矢仕彩子（2002）「留学生日本語学習支援ボランティアグループ「てらこや」の活動と意義」『人文論叢』第19号、117-120.

福岡昌子・藤本久司・別府直苗（2004）「全学部を対象とした「日本語学習サポート」の取り組み」『三重大学留学生センター紀要第6号』、pp.125-137

横田雅弘（1999）「留学生支援システムの最前線」『異文化間教育13号』、pp.4-18.

資料1 日本語学習サポートに参加した日本人学生と留学生に対する意識調査（日本人学生）

●留学生への学習サポートを振り返って、アンケートに答えてください。

1. あなたは、どのレベルの留学生に日本語学習サポートを行いましたか。  
①( )初級レベル ②( )中級レベル ③( )上級レベル
2. 主に、どんなことを指導しましたか。(複数可)  
①( )文法 ②( )漢字 ③( )読解(テキストや新聞を読むこと)  
④( )会話 ⑤( )作文・レポート⑥( )聴解(テープなどを聞くこと)  
⑦( )専門や外国語などの学習 ⑧( )その他 \_\_\_\_\_
3. この日本語学習サポートについては、何で知りましたか。(複数可)  
①( )構内の掲示板 ②( )学内のインターネット情報  
③( )先生の紹介 ④( )友人の紹介  
⑤( )サークル案内 ⑥( )その他 \_\_\_\_\_
4. なぜ、この日本語学習サポートをやってみようと思いましたか。(複数可)  
①( )留学生と交流をしたかった。 ②( )留学生の役に立ちたかった。  
③( )外国語を勉強したかった。 ④( )異文化に興味があった。  
⑤( )その他 \_\_\_\_\_
5. 日本語学習サポートをやってみて、指導上むずかしいと思ったことは何ですか。(複数可)  
①( )特に困ったことはない。  
②( )教え方 ③( )知識が乏しいこと  
④( )説明の仕方 ⑤( )媒介語(英語など)の力が乏しいこと(特に初級レベル)  
⑥( )留学生と自分の時間が合わないこと ⑦( )留学生との連絡方法  
⑧( )留学生との交流の仕方 ⑨( )勉強会やミーティングに参加できないこと  
⑩( )その他 \_\_\_\_\_
6. 留学生から学習以外に、何か頼まれたことがありましたか。  
①( )なかった  
②( )あった
7. 6で、「あった」と答えた人へ:どんなことを頼まれましたか。  
①( )個人的な問題を相談された。  
(もしよかったら、具体的に書いてください。\_\_\_\_\_)  
②( )金銭的な貸し借りを頼まれた。  
③( )学習以外の誘いがあった。

④( )その他 \_\_\_\_\_

8. 7で答えた人へ: そのとき、あなたは、どう思いましたか。

①( )できるだけ、いいアドバイスをしたいと思った。

②( )自分では、解決できないと思った。

③( )困った。できれば、関わりたくない。④( )よかった。

⑤( )その他 \_\_\_\_\_

9. 日本語学習サポートを行った留学生とは、うまくやれましたか。(複数可)

①( )うまくやれたと思う。

②( )その留学生とは、うまくやれなかった。

③( )うまくやれても、やれなくても、日本語学習サポートを行うにあたっては、あまり関係ないと思う。

10. 9でうまくやれなかったと答えた人へ: なぜうまくやれなかったと思いますか。

①( )その留学生とは少し性格的に合わないので。

②( )その留学生の考え方や行動が理解できなかったの。

③( )その留学生と時間が合わなかったの。

④( )自分の教えたいレベルの留学生ではなかったの。

⑤( )その他 \_\_\_\_\_

11. 日本語学習サポートをやってみて、自分にプラスになったことは何ですか。(複数可)

①( )留学生の日本語の大変さがわかった。

②( )留学生の気持ちや考え方が理解できた。

③( )留学生の役に立てて、うれしい。

④( )留学生と交流をすることができて、よかった。

⑤( )日本語について再発見できた。

⑥( )サークル活動ができてよかった。

⑦( )その他 \_\_\_\_\_

12. 日本語学習サポートをやってみて、自分にとってマイナスだったことは何ですか。(複数可)

①( )自分にとってマイナスだったことはない。

②( )自分の時間が減った。

③( )サポートすることに、少し負担を感じてきた。

④( )サークル的な活動に、少し負担を感じてきた。

⑤( )留学生との付き合いが煩わしくなった。

⑥( )その他 \_\_\_\_\_

13. 日本語学習サポートのどのような点が、留学生にとって役に立つプログラムになっていると思

ますか。(複数可)

- ①( ) 個々の留学生の日本語能力が向上するから。
- ②( ) 留学生に対して日本語の学習を通して支援していけるから。
- ③( ) 留学生が多く日本人と知り合えるチャンスが増えるから。
- ④( ) 留学生が自分たちの文化を伝えるチャンスが増えるから。
- ⑤( ) 何らかの形で、留学生を支援する輪が広がっていくから。
- ⑥( ) 大学全体が留学生を理解するきっかけになると思うから。
- ⑦( ) その他 \_\_\_\_\_

14. 日本語学習サポートのプログラムに対して、今後どのようなことが必要だと思いますか。

- ①( ) サポートする日本人学生のレベルを上げるために、勉強会の数を増やす。
- ②( ) 留学生と日本人学生が、サポート以外に一同に集まる機会が半年に1回は少ないので、増やす。
- ③( ) マッチングの方法をもっと考える。
- ④( ) 日本人同士、留学生同士の連絡方法について改善する。
- ⑤( ) 留学生同士の集まるミーティングを作る。
- ⑥( ) サポートする日本人学生は、積極的にミーティングなどに参加する。
- ⑦( ) 見学旅行や学外のイベント参加を増やす。
- ⑧( ) \_\_\_\_\_

15. その他、今このプログラムについて思っていることを、ご自由にお書きください。

## 資料2 日本語学習サポートに参加した日本人学生と留学生に対する意識調査(留学生)

●これまで受けた学習サポートを振り返って、アンケートに答えてください。

1. あなたは、どのレベルの日本語学習サポートを受けましたか。

- ①( ) 初級レベル ②( ) 中級レベル ③( ) 上級レベル

2. 主に、どんなことを勉強しましたか。(複数可)

- ①( ) 文法 ②( ) 漢字 ③( ) 読解(テキストや新聞を読むこと)
- ④( ) 会話 ⑤( ) 作文・レポート ⑥( ) 聴解(テープなどを聞くこと)
- ⑦( ) 専門や外国語などの学習 ⑧( ) その他 \_\_\_\_\_

3. この日本語学習サポートについては、何で知りましたか。(複数可)

- ①( ) 構内の掲示版 ②( ) 学内のインターネット情報



③( )先生の紹介 ④( )友人の紹介

⑤( )サークル案内 ⑥( )その他\_\_\_\_\_

4. なぜ、この日本語学習サポートを受けてみようと思いましたか。(複数可)

①( )日本語の力を伸ばしたかった。

②( )いつでも日本語のことを聞いたり、話したりできる人がほしいと思っていた。

③( )日本人学生と交流をしたかった。

④( )日本人と日本文化に興味があった。

⑤( )その他\_\_\_\_\_

5. 日本語学習サポートを受けてみて、学習上困ったことは何ですか。(複数可)

①( )特に困ったことはない。

②( )教え方がじょうずではない。

③( )日本人学生の文法などの知識が乏しいと思った。

④( )日本人学生と何をどのように勉強したらよいか、自分でもまだよくわからない。

⑤( )日本人学生と自分の時間が合わない。 ⑥( )日本人学生との連絡方法

⑦( )日本人学生との交流の仕方 ⑧( )留学生同士の集まりがないこと

⑨( )自分が学習したいこととサポートの内容が違っていた。

⑩( )その他\_\_\_\_\_

6. 日本人学生から学習以外に、何か頼まれたことがありましたか。

①( )なかった

②( )あった

7. 6で、「あった」と答えた人へ:どんなことを頼まれましたか。

①( )英語や中国語など、教えてほしいと頼まれた。

②( )金銭的な貸し借りを頼まれた。

③( )学習以外の誘いがあった。

④( )その他\_\_\_\_\_

8. 7で答えた人へ:そのとき、あなたは、どう思いましたか。

①( )できるだけ役に立ちたいと思った。

②( )自分では解決できないと思った。

③( )困った。できれば、関わりたくない。 ④( )よかった。

⑤( )その他\_\_\_\_\_

9. 日本語学習サポートを行った日本人学生とは、うまくやれましたか。(複数可)

- ①( )うまくやれたと思う。
- ②( )その日本人学生とは、うまくやれなかった。
- ③( )うまくやれても、やれなくても、日本語を教えてもらう際<sup>さい</sup>には、あまり関係ないと思う。

10. 9でうまくやれなかったと答えた人へ:なぜうまくやれなかったと思いますか。

- ①( )その日本人学生とは少し性格的に合わないので。
- ②( )その日本人学生の考え方や行動が理解できなかったの。
- ③( )その日本人学生と時間が合わなかったの。
- ④( )自分の教えてもらいたい知識や経験<sup>きん</sup>を持った日本人学生ではなかった。
- ⑤( )その他\_\_\_\_\_

11. 日本語学習サポートを受けてみて、自分にプラス(+ )になったことは何ですか。(複数可)

- ①( )わからないとき、教えてもらってよかった。日本語の力が上がったように思う。
- ②( )日本人の気持ちや考え方が理解できた。
- ③( )先生以外に、日本語を教えてくれる日本人がほしかったので、よかった。
- ④( )日本人学生と交流をすることができて、よかった。
- ⑤( )その他\_\_\_\_\_

12. 日本語学習サポートを受けてみて、自分にとってマイナス(- )だったことは何ですか。(複数可)

- ①( )自分にとってマイナスだったことはない。
- ②( )自分の時間が減<sup>へ</sup>った。
- ③( )日本語を教えてもらっても、あまり日本語の力<sup>ちから</sup>が上がりなかった。
- ④( )日本人学生との付き合いが煩<sup>わづら</sup>わしくなった。
- ⑤( )その他\_\_\_\_\_

13. 日本語学習サポートのどのような点が、留学生にとって役に立つプログラムになっていると思いますか。(複数可)

- ①( )個々の留学生の日本語能力が向<sup>こう</sup>上<sup>じょう</sup>するから。
- ②( )留学生に対して日本語の学習を通して支援<sup>しえん</sup>していけるから。
- ③( )留学生が多く日本人と知り合えるチャンスが増えるから。
- ④( )留学生が自分たちの文化を伝<sup>つた</sup>えるチャンスが増えるから。
- ⑤( )何らかの形<sup>かたち</sup>で、留学生を支援する輪<sup>わ</sup>が広がっていくから。
- ⑥( )大学全体が留学生を理解するきっかけになると思うから。
- ⑦( )その他\_\_\_\_\_

14. 日本語学習サポートのプログラムに対して、今後どのようなことが必要だと思いますか。

- ① ( ) サポートする日本人学生のレベルを上げる。
- ② ( ) 留学生と日本人学生が、サポート以外に一同に集まる機会が半年に1回は少ないので、増やす。
- ③ ( ) マッチング(日本人学生と留学生のペアを組み合わせること)の方法をもっと考える。
- ④ ( ) 日本人同士、留学生同士の連絡方法をもっとよくする。
- ⑤ ( ) 留学生同士の集まるミーティングを作る。
- ⑥ ( ) 見学旅行や学外のイベント参加を増やす。
- ⑦ ( ) その他 \_\_\_\_\_

15. その他、今このプログラムについて思っていることを、ご自由にお書きください。